千人塚

種市高校から、海沿いの道を北上すると、右手にソーラーパネルが広がる風景が目に飛び込んできます。

そのまま北上を続けると、ソーラーパネルの間にポツンと立つ石碑が！

裏に回ると、石碑に『千人塚供養塔』と彫られています。

＜千人塚の云われ＞

昔、東北は朝廷に従わない蝦夷（エミシ）が住む蝦夷地（エゾチ）と呼ばれていました。

しかし、朝廷は、良馬の産地で、金や良質の鉄も産出される蝦夷地を我がものにするため、蝦夷征伐を繰り返し行っていました。

弘仁2年（811 年）、朝廷から征夷大将軍に任命された文屋綿麻呂（ふんやのわたまろ）の軍がこの地まで攻め込んできました。（征夷大将軍は坂上田村麻呂で、文屋綿麻呂が同行していたとの説もあるようです。）

二戸地方に勢力をもっていた二佐平（にさったい）の伊加古（いかこ）と軽米の宇漢米（うかめ）を攻め滅ぼし、その勢いのまま種市に攻め込み、この地の人々を千人も殺戮し、その遺体をこの地に埋めたと伝えられています。

この石碑は、その犠牲になった人々の供養のために建てられたものです。

歴史の授業で習う、征夷大将軍や坂上田村麻呂を、こんなところで耳にするとは！